

平成30年度第1回山元町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 平成30年5月24日(木) 午後2時00分から午後3時20分
- 2 開催場所 山元町勤労青少年ホーム 1階 講義室
- 3 出席者 別紙「出席者名簿」のとおり
- 4 概要 以下のとおり
 - (1) 開催
 - (2) 開会の挨拶
 - (3) 議題
 - ①「教育等の振興に関する施策の大綱(案)」について
資料1に基づき説明(説明者:佐藤学務課長)
 - ②山元町内小・中学校の再編検討について
資料2に基づき説明(説明者:佐藤学務課長)
 - ③震災遺構の進捗等について
資料3に基づき説明(説明者:佐山生涯学習課長)
 - (4) その他
 - (5) 閉会

1 開催にあたり【司会:佐藤学務課長】

ただいまから、平成30年度 第1回山元町総合教育会議を開会いたします。
開会にあたりまして、山元町長 齋藤 俊夫よりあいさつを申し上げます。

2 あいさつ【山元町長:齋藤俊夫】

本日は平成30年度1回目になります。総合教育会議にご出席いただきありがとうございます。この制度がスタートして、今年で4年目となりますが、委員の皆様には、日ごろから、未来を担う、山元の子どもたちや、町民のだれもが将来へ向けた夢と志を育む教育政策の実現に向け、日々、ご尽力いただいておりますことに対し、心から感謝申し上げます。

震災から8年目を向かえ、震災復興計画の発展期の最終年度となり、震災関連の復旧復興事業も概ね完了するなど、新生やまもとの実現に向け、一步一步、確かに歩みを進めております。

また、私事になりますが、先日の町長選挙において、町民の皆さまの負託を受け、3期目の当選を果たすことが出来ましたので、今後4年間、選挙公約の実現に向けまして、引き続き「チーム山元」心ひとつに「復興・創生」にまい進して参りたいと

存じます。

本日の議題にもしております「小・中学校の再編検討」については、県内においても児童・生徒数の減少により、学校の統廃合が行われており、本町におきましても、今後の人口減少を見据えながら、「子どもたちにとってよりよい教育環境」を最優先として検討を進めていかなければいけないと考えております。

また、子育て支援策として、学校給食費や奨学金の補助制度などの創設、教育施設の環境整備や学力向上に向けた支援など、「子育てするなら山元町」の具現化に向け鋭意取り組んで参りたいとも考えております。

生涯学習関係施設についても、交流人口を確保していかないと町の活性化は難しいと考えておりますので、旧中浜小学校の震災遺構としての活用や、町民グラウンドの復旧工事にあわせた改修工事、コミュニティ再生に向けた行政区や職場対抗のレクリエーション大会などの開催など、定住や交流人口の拡大、賑わいと活力の創出に向け各種事業を展開していきたいと考えております。

教育委員の皆様にも、この機会に最近の町の動きをご紹介申し上げますと、保育所問題が議会でもとりだたされておりましたが、執行部としては、坂元に保育所という状況ではないと確認しておりますので、まずは、子育て世代が希望した、多様な保育ニーズに、しっかり答えられるような対応をしていくこととしておりました。先月23日から一時預かりをスタートさせたところでございます。

それ以外にも、現在進めているのは、ファミリーサポートセンター事業でございまして、育児の援助を受けたい人と、援助を行いたい人をマッチングさせる事業をスタートさせたいと考えてございます。

それから、子育て関係では、宮城病院でつくし保育園が4月から地域型保育事業に移行し、町内6人の地域枠を頂戴しました。

医療関係では、つばめの杜の商区画の一角に仙台で歯科をされていた方が、診療所を11月頃にはオープンさせたいという動きがあります。

また、桜塚の新市街地の医療福祉ゾーンを設けた結果、高齢者向けの介護老人介護福祉施設が2つオープンしております。

次に、企業誘致関係で2つございまして、1つは菓匠三全が坂元に所有していた土地が、四半世紀動きがない土地でございすけれども、ようやく土地利用が具体化することとなりました。初めから広大な土地全て賑わうのではなく、段階的な土地利用とはなりますけれども、お菓子の梱包なり、資材倉庫、あるいは小さな自社製品の販売コーナーのようなものが着手される運びであります。

もう1つは、新浜別荘地、13ヘクタールありますけれども、太平洋ブリーディングという養豚場を経営する会社で、プリマハムの子会社でございす。プリマハムは日本有数の商社でございす。

こちらが、福島県の富岡町から原発の影響もございまして、本町へということで、

来年度中には土地を引き渡すような形で計画しており、臭気が懸念される、笠野区、合戦原区、町区の一部の皆様への説明会を開催しております。

学校関係の説明会もそうなのですが、参加者数が少ないようで、4、5人しかこない状況で、理解していただいているのかなと考えるところであります。

道路整備につきましては、八手庭の交差点の道路改良が終わりましたが、今年度内の完成といたしまして、高瀬の交差点の右折レーンとゴルフ場に出入りする右折レーンが国土交通省の事業で年度内に完成予定として取り組んでいただいているところです。

それから、ダンプの往来で傷んでおりました町道の大規模補修工事ですが8月末頃に完成する見込みでございます。

最後に、東部の農地整備でこの5月から水田の引渡しをしております、早速、田植えが始まっております。来月には、畑地を引き渡しを行いますので、秋には、豊穡の大地が蘇るのかなと期待しているところでございます。

本日は限られた時間ではありますが、委員の皆さまから忌憚のないご意見をいただき、有意義な会議としたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げ、開会のあいさつといたします。本日はよろしくお願いいたします。

－以下議事－

3 議 題

【司会】

それでは、次第に基づきまして、議題に入らせていただきますが、議題の進行につきましては、山元町総合教育会議運営要綱第4条の規定に基づき、齋藤町長が議長となり、進行させていただきますので、よろしくお願いいたします。

【議長】（齋藤町長）

はい、それでは、「教育等の振興に関する施策の大綱（案）」について事務局から説明をお願いします。

【説明】（佐藤学務課長）

それでは、①「教育等の振興に関する施策の大綱（案）」についてご説明いたします。

お配りしております資料1をご覧ください。

大綱については、昨年3月に平成33年度までの5年間を計画期間とした「山元町教育振興基本計画」をもとに、昨年度大綱を策定したことから、今年度の大綱案については、前年度の大綱を踏襲した形としております。

それでは、表紙の裏面をご覧ください。

大綱の基本とした教育振興基本計画については、「4つの目標」とそれに対する「7

つの基本方向」、更にその施策の中から、期間内に重点的に取り組むべき事項として「10の重点事項」を掲げており、その内容を持って大綱を策定しております。

今年度見直した部分といたしましては、重点目標について平成30年度に取り組む予定としている「具体的内容・事業」について加筆しており、今年度予算措置がなされた事業として教育基本方針の『平成30年度教育重点施策』とした事業や、齋藤町長の公約として掲げられ、早急に取り組む予定とされた事業等について追加し策定したものとなっております。

以上が、今年度の策定した大綱案の内容となります、よろしくご審議の程お願いいたします。

【議長】（齋藤町長）

事務局からご説明がありましたが、昨年度に策定した「教育基本計画」との整合性、今後のまちづくりの具体的な取り組みなども明記してもらい案を作成しております。ご意見等をお願いします。

【教育委員】（菅野委員）

目標1の(3)「信頼され魅力ある教育環境づくり」の「子育て支援の拡充」中「学校給食費の負担軽減」は具体的にはどのように軽減されていくのですか。

【事務局】（佐藤学務課長）

この件に関しましては、議会でも何度か一般質問で、「給食費の負担軽減」と質問を受けておりました。

今回、町長の公約にも「給食費の負担軽減」を掲げておりますが、例えば第2子以降など、子育ての支援となればと思っており、今後、検討を重ね、平成31年度からの実施に向け、具体的な方向性を確定して取り組んでいきたいと考えております。

【教育委員】（菅野委員）

「子育てするなら山元町」のキャッチフレーズがありますから、出来るだけ子どもをたくさん育てられるようになっていけばいいなと思います。

【教育委員】（荻原委員）

目標1の(2)「豊かな人間性や社会性、健やかな身体の育成」の「健康な身体づくりと体力・運動能力の向上」中「部活動等外部指導者の活用」について、現時点では、何人位の外部指導者がいるのでしょうか。

【事務局】（佐藤学務課長）

具体的な人数は今は資料がありませんが、県の事業がありますので、山下中学校はこの事業を活用し外部指導者を配置しております。

【議長】（齋藤町長）

大綱（案）目標1（3）にもございますが、この機会に「学校施設の改修」について、事務局から委員の皆様へ情報提供をお願いします。

【事務局】（佐藤学務課長）

はい、学校施設の改修につきましては、国の学校施設環境改善交付金を活用し、平成30年度として、坂元小学校の大規模改修を要望しておりましたが、残念ながら対象外となりました。

このことから、引き続き次年度分として要望して参りたいと考えております。

【議長】（齋藤町長）

補足させていただきますと、大綱（案）目標1（3）にもございますが、「学校施設の改修」のほか、「教室のエアコン設置」と「トイレ洋式化」は早い段階で実施したいと考えておりますが、文部科学省でこのような事業への補助金制度がございまして、これらを活用し町の持ち出しを少なくするとすると、採択がされないなどのタイミングの問題もあるということをご理解いただければと存じます。

【教育委員】（菅野委員）

目標2の丸1つ目「地域と学校との協働による学校支援の仕組みづくり」中「地域学校協働本部設置」についてですが、学校教育に関しましては、学校だけで実施するというよりも、地域や保護者の方々と一緒に協働で実施していくという方が効果があるのではないかとということで、色々な取り組みがされているところです。

具体的な今後の取り組み内容はどのようなものでしょうか。

【事務局】（佐山生涯学習課長）

地域と学校の連携としましては、小学校ですと坂元小学校については、「はまっこキッズ」、山下第一小学校につきましては、「みやまっこクラブ」とそれぞれ地域の方々の協力を頂きながら、特に放課後に子どもたちの面倒を見てもらっているところです。

今回の「地域学校協働本部」の立ち上げにつきましては、それぞれの学校がそれぞれの地域の方々と活動するという別々の状態から、本部を立ち上げることによって、2つの学校での活動をコーディネートして頂き、お互いの事業がどのように展開されるかを確認しながら、1つとして進めていきたいと思いますという取り組みです。

これは、今年度からスタートということで、この事業については、要綱として定められました。管内の状況としましては、今年度要綱として定めたのは、本町と七ヶ浜町になります。そのような意味では、先駆的な役割を果たす中で進めていきたいと考えております。

【議長】（齋藤町長）

そのほか、ありますでしょうか。

【議長】（齋藤町長）

無いようですが、この機会に交流センターのご紹介をお願いします。

【事務局】（佐山生涯学習課長）

交流センターにつきましては、昨年度、坂元と山下にそれぞれ設置し開館しております。坂元については7月から、山下については10月からと開きはありますが、一定程度の利用者がいます。特に山下については、月平均で約4千人が利用しております。この施設については、地元の方だけではなくて、防災拠点という特殊な建物ということもありますので、県内のみならず県外からもお越しいただいて利用されているという人の流れもあります。

月4千人がどのような数字かということ、今の中央公民館の利用者が、月2千から2千5百人位ですので、それを上回る人たちが山下の交流センターを使っているということです。視点を改めて考えると、中央公民館と山下の交流センターを併せると概ね月6千人となるわけです。交流センターを開館する前の中央公民館の利用者数は概ね月3千人から4千人であったことを考えると、新たな利用者が集まってきているという状況になっております。

非常に活用して頂いているということですので、創意工夫をしながら更に活用していただけるような取り組みを行って参りたいと考えております。

【議長】（齋藤町長）

他にご意見等ありますでしょうか。

【教育委員】（齋藤委員）

目標3「次代を支える社会の一員として、歴史が培ってきた文化や規範を尊重し、思いやりの心に富んだ人間を育むとともに他国の文化の理解を深める」中、「小・中学校へのALT配置事業」についてですが、具体的にどのようなことをするのでしょうか。

【事務局】（佐藤学務課長）

はい、小・中学校へのALT配置事業につきましては、中学校については、町が雇用する形で1名の外国語指導助手を採用し、両中学校に1週間ずつ交代で配置しております。小学校については、業務委託で小学校4校を週1日ずつ訪問している現状でございます。

また、今後の新学習指導要領への移行に向けた準備作業も含めまして、外国語指導補助員を1名雇用し、小学校へ配置しているところであります。

【議長】（齋藤町長）

他にご意見等ありますでしょうか。

【議長】（齋藤町長）

ご質問等無いようですので、①「教育等の振興に関する施策の大綱（案）」について、原案どおり改定することよろしいでしょうか。

【全委員】

はい。

【議長】（齋藤町長）

はい、それでは、①「教育等の振興に関する施策の大綱（案）」については、原案のとおり改定することに決定します。

【議長】（齋藤町長）

次に、②「山元町内小・中学校の再編検討について」事務局からご説明をお願いします。

【説明】（佐藤学務課長）

はい、それでは、事前にお配りしております、資料2をご覧ください。

昨年11月に検討委員会を立ち上げ、資料では7回となっておりますが、昨日、第8回目の検討委員会を開催しております。

この間、1月にアンケート調査、2月に丸森町視察を実施しております。

次に、住民意向調査の総括として資料をご覧ください。

この資料については、以前も配布しておりますので、詳細な説明は省略しますが、7ページでは、学校再編の必要性について、多かった回答は、「H25の方針のとおり」で22.1%、次いで、「方針を見直し検討」が20.3%、次いで、「中学校優先」、「小学校優先」となり、合わせて約7割の方がなんらかの形で再編を検討していく必要があると回答しております。

次に、再編を検討していくうえで、重要なことの問いでは、多かった回答は、「通学手段について、子どもたちが負担にならないよう」、次いで「子どもたちに不安や戸惑いがないよう配慮」、次いで「児童・生徒数や教員数のバランスのとれた学校規模や学区編制に配慮」となっております。

次に、「再編を検討する段階でない」と回答した方の理由ですが、「通学や防犯上の問題」や「学校の小規模・少人数は子どもたちにとっていいこと」、更には、「地域のよりどころとなっている学校がなくなるのはいけない事」となっております。

次に、グラフが記載されている資料をご覧ください。これは、第7回検討委員会に

において、委員全員から、現段階の再編の考え方を述べてもらった結果となっております。

小学校については、1 学校区が 8 名、2 学校区で将来 1 学校区が 5 名、2 学校区と 4 学校区が 3 名ずつとなっております。

中学校については、全員が 1 学校区との意見でした。

次の資料については、小学校の再編パターン毎に課題を抽示したものです。

一番上は 4 学校区のまま、次は 2 学校とした 4 パターン、最後に 1 学校区としたものをまとめた資料となっております。

次の資料は、検討委員会でも小中一貫校との話題もあがったことから作成した資料で、義務教育学校、併設型小・中学校の概要を示したものです。

最後の資料としては、国立社会保障・人口問題研究所が出した、本町の将来人口の推計となります。2015年の総人口は12,315人でしたが、2045年には6806人と44.7%の減少が見込まれており、特に減少が大きいのは0歳から14歳で2015年の1,141人から2045年には359人と68%の減少が見込まれております。以上です。

【議長】（齋藤町長）

はい、ありがとうございました。

繰り返しになりますが、意向調査の結果では、7割以上がなんらかの形で再編が必要であると、それから、検討委員会の意見についても、中学校については、全ての方が、1 学校区へ再編、小学校においても、1 学校区との意見が多いようです。

また、人口もここ30年で大きく様変わりするという推計であります。

この状況を踏まえ教育委員の皆様のご意見を頂戴したいと思います。

【教育委員】（菅野委員）

意向調査の結果から、各層の方々の考えが大分見えてきたと思います。

大部分の方が、再編ということです。

中学生は大事な時期であると思います。お互い切磋琢磨して、その中で友情や学力向上など、中学校としてしっかり教育をする必要がある。ある程度人数がいて、生徒会活動や部活動など、そういうことが必要であると思います。また、教員の定数の問題もあり、教科担任制なので、1 学校区になれば、クラス数が増え、しっかり先生が配置されるのではないのでしょうか。

検討委員の方々も全員、1 学校区のことなので、その方向性でよいと思いました。

小学校については、いろいろな意見があるようで、2 学校区から将来的に 1 学校区との意見もあるが、学校はそう簡単に学校区を変更できるものではないと思います。

また、小学校は地域との繋がりもあると思います。山下第二小学校が出来たばかりであることや、人口推計から最終的には 1 学校区にならざるを得ない推計も出ています。検討委員会もこのような状況でなんらかの答えを出さないといけない状況にある

と思います。

【教育委員】（大内委員）

教育委員会の中でも、意向調査の結果を受けて話しましたが、中学校については、早期に1学校へ再編をと考えております。

小学校については、なかなか難しい、中浜小を坂元小に統合した時も委員をしていましたが、あの時も相当なエネルギーをつかいました。

なので、小学校については、少し様子を見てとも考えております。

【教育委員】（荻原委員）

山一小の来年度新入生の3人について、他の学校への希望はないのでしょうか。

【事務局】（佐藤学務課長）

3家族のうち、2家族から子どものために山下小へ通学させたいとの話がきており、来週話し合いの場を設けております。

【委員】（菊池教育長）

補足させていただきますと、2家族からの申し出につきましては、人数が少ないところで6年間過ごさせるということと、3人のうち2人が女の子で1人が男の子のため、男の子の家庭では、女の子だけに囲まれて過ごすのは不安があるとの申し出です。

人数が少ないので、別の学校に通学ということに関しては、指定校変更を認める規程の中にはないのですが、いろいろなケースがあり、「特に教育委員会が認めた場合」の一文がありますので、教育委員会の中での検討となります。この件につきましては、ご説明をしたうえで、すぐに認められないと言えるものでないのですが、出来るだけそのまま山一小に通っていただけるようにお話をしようと考えております。

というのも、新入学生が1人となった場合、上の学年が11人であり、併せて12人となると2年生の時に複式学級になります。新入学生が2人の場合は、13人となり、先生の加配がつき1人配置になりますので、複式学級は避けられるということがあります。

このご家庭の動きについては、保護者の意向に沿わないといけないと考えておりますが、影響として、学校再編検討委員会では、当面複式学級の編制はないという前提で検討を進めておりますので、その点で影響が出る可能性があります。

また、新入学生が1人となった時に、複式学級の組となる1つ上の学年の保護者にもご理解を頂く必要があるということで、その点も含めてご説明させていただこうと考えております。

【議長】（齋藤町長）

坂元小学校についても、新入学生で男の子が1人だけという事例があったが、どの

ように対応したのでしょうか。

【事務局】（佐藤学務課長）

坂元小学校の事例につきましては、今年度の新入学生でした。同じように保護者から山下小学校への入学の申し出があり、教育委員会で協議し認めた事例となります。

【議長】（齋藤町長）

このような悩ましい問題もあるので、学校再編についても先を見据えて議論をしていただきたいです。

【教育委員】（大内委員）

地域から抵抗はあると思いますが、将来を見越した方針（小学校1学校区）を立てるのも必要であると思います。

【教育委員】（荻原委員）

今も、生徒数を見ると、中学校は吹奏楽部も3年生が卒業すると2人になるなどの現状もあります。

【議長】（齋藤町長）

タイミングを見ると、今回、学校再編問題に取り組む必要はあったと思います。問題を避けて通るのではなく。

【教育委員】（荻原委員）

坂元地区の人からみれば、地域から学校がなくなれば、地域が廃れていくという思いもありますが、子どもたちのことを考え、山元町は一つと考えれば思いが変わってきているところもあると思います。

【教育委員】（菅野委員）

人口推計から小学校は1学校区や2学校区は避けられないと思います。

【委員】（菊池教育長）

人口問題研究所の推計をみれば、何年後かには1学校区にせざるを得ない状況がくることとなりますが、その途中に2学校区を挟むか、ある時期で一気に1学校区にするかのどちらかと考えております。

【議長】（齋藤町長）

牛橋地区において学区が分かれている問題については、検討委員会での話しはあるのでしょうか。

【事務局】（佐藤学務課長）

牛橋地区が山下第一小学校と山下第二小学校に分かれている現状については、問題提起はしましたが、議論がまだ学区のところまで至っていないのが現状です。

【議長】（齋藤町長）

他にご意見等ありますでしょうか。

【議長】（齋藤町長）

無いようですので、②「山元町内小・中学校の再編検討について」を終了いたします。貴重なご意見ありがとうございました。

【議長】（齋藤町長）

次に、③「震災遺構の進捗等について」事務局から説明願います。

【事務局】（佐山生涯学習課長）

はい、資料3をご覧ください。保存活用に係る経緯につきまして、現在は、校舎改修設計の業務委託を発注して、ソフト的な部分を進めており、基本設計がほぼ固まったところであります。

保存活用の方向性についてですが、3点ありまして、1点目は被災した校舎の現状を可能な限り保存すること、2点目は概ね20年間は校舎の内部を見せること、3点目は維持管理コストを低減するというものです。

この震災遺構は、平成32年度の早い段階で公開しようとして取り組んでおります。そのために、今年度は設計業務を進めているところで、併せて、保存条例の制定を6月議会に提案し、来年度については、工事を中心とした取り組みとなります。

2枚目をお開きください。校舎の正面玄関をに入って、中央階段を登り、旧音楽室と旧図書室をそれぞれ展示室に改修しようと考えております。それから、倉庫の階段を登って屋上に上がるという順路になります。

次に、展示物の内容ですが、資料に記載のとおり、動画やジオラマを使用し災害の脅威、防災の重要性を語りかけていきたいと考えております。

最後に、広場の土地利用の構想ですが、駐車場については校舎の西側に配置しようと考えており、管理棟も併せて設置することとしております。また、校舎を中心に津波浸水表示板を増設する考えと広場にはモニュメントを設置したいと考えております。説明は以上です。

【議長】（齋藤町長）

ただいまの説明でございますが、平成32年度から公開するとのことですが、ただいまの説明について、意見等をお願いします。

【教育委員】（大内委員）

この件については、教育委員は了承しているところです。

【教育委員】（菅野委員）

見学者の受付や語り部などソフト面での対応はどのように考えておりますでしょうか。

【事務局】（佐山生涯学習課長）

まず、開館している間は管理人を常駐させたいと考えております。その中で、ただ見てもらうだけではなく、語り部や地域の方々の力を借りることも視野に入れ、これから検討して参りたいと考えております。

【議長】（齋藤町長）

管理棟は作るのですが、管理人の常駐については検討課題であると考えております。

【議長】（齋藤町長）

他にご意見等をお願いします。

【議長】（齋藤町長）

無いようですので、本日予定しておりました議題については以上となりますが、その他何かありましたらお願いいたします。

【議長】（齋藤町長）

本日は、非常に貴重なご意見や情報交換ができ、大変ありがとうございました。
それでは、本日の議題は、以上になりますので、進行を事務局にお返しいたします。

【事務局】（佐藤学務課長）

はい。ありがとうございました。

以上をもちまして、平成30年度第1回総合教育会議を閉会といたします。